

第3第

そけいヘルニア 手術前の予約と 診察プロセス

Dr. 村田の
HGS!
(日帰り・外科・手術)

足の付け根あたりにふくらみを感じ、あれっ？と気づく「そけいヘルニア」。症状による手術の必要性を判断するために、初診は次のような流れで診察を進めていきます。

1. [問診] 患者さんの自覚症状をしっかりと聴く。
2. [視診] 立った状態でのふくれ具合を見る。
3. [触診] 患部を触って大きさや硬さなどを確認。
4. [超音波検査] 横になっておなかに力を入れてもらい、ふくらみのある場所を超音波で観察。医師と一緒に患者さん自身もモニターを見ながら確認。

以上の診察後、手術のための心電図、血液検査を行い、予定日を決めて同意書にサインをしていただき終了になります。

初診はお電話で予約されるとスムーズです。直接お越しの場合は午後2時から受け付けています。また、県外など遠方からの来院が困難な方は、電話での問診を村田先生と十分に重ねた上で、手術の予定を組む方法にも対応しています。どうぞご相談ください。

「はじめの問診では、きめ細やかにご説明をします。手術が決まった患者さんには、実際の施術の写真画像をみってもらうことで視覚情報でも納得していただいています。写真には出血などは写っていませんが、気のすまない患者さんにはもちろんお見せしませんのでご安心ください」。日帰りの手術によって、患者さんが抱えるそれぞれの症状から一日でも早く解き放されることを目指しています。

そけいヘルニア Q&A

Q 診察は今月に予約し、手術は3ヶ月後の長期休暇に行いたいと思っているのですが、間が長くあいてしまっても大丈夫ですか？

A 問題ありません。ただ時間の経過で症状が変化しますので、術前の検査（心電図、血液検査）は1週間位前に行います。ご希望の手術日を予約するために早めに初診に来られることは有効です。海外からは、帰国に合わせて診察と手術日の予約をする方もいます。



学会への論文、そして外科手術の症例を発信し続けている村田先生。日帰り外科手術でひとりでも多くの患者さんに質の高い技術を提供したいと話す。



皮膚・排泄ケア認定看護師の熊谷英子統括看護部長（右）と小野寺紀文事務次長。

2人の連携により在宅ケア、往診、訪問看護の最新のケアと安心を患者さんへ。

熊谷看護師の「いつでもどこでも素敵なあなたの笑顔が見たいから」という思いが笑顔にあふれているよう。